

【西区】令和2年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年6月9日 15時56分 ～ 17時51分
場 所	西区役所3階3B会議室
出席者	<p>【座長】 荻原隆宏議員</p> <p>【議員：2名】 清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：15名】 寺岡洋志区長、松井達也副区長、宮川淳一消防署長、玉崎悟福祉保健センター長、川北好伸土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度 西区運営方針について 2 令和2年度 西区主要事業の進捗状況について 3 西区に係る予算のすがた 4 西区における開発動向等について 5 西区役所における新型コロナウイルス感染症への対応について
発言の 要 旨	<p>【令和2年度 西区運営方針について】</p> <p>【令和2年度 西区主要事業の進捗状況について】</p> <p><新型コロナウイルス感染症による主要事業等への影響></p> <p>清水議員：新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえて、感染者対応など医療の視点、地元商店街に関わる経済の視点、そして教育の視点から、それぞれどのような感想を抱いているのか聞かせてほしい。</p> <p>玉崎福祉保健センター長：医療の視点について、4月上旬は、コロナウイルスの性状が未解明のことも多く、感染症対応を直接担当する福祉保健課においても、患者調査などは混乱していた。地域の医療機関において、PCR検査が必要と判断された患者を、医療機関のつながりで検査につなげてもらった事例もあった。その後、健康福祉局の検査機器の増設やPCRセンターの設置により、5月には検査態勢が整った。現在、西区の感染者は15人で、18区で2番目に少ない。区民の外出自粛や企業・事業者の活動自粛など、3密を避ける取組等が実践されたことで、混乱した中でもしっかり対応はできたと感じている。</p> <p>寺岡区長：経済の視点について、全国的な傾向と同様に、西区においても外出自粛の影響により、大変厳しい状況に置かれている、という声が各団体の長を通じて寄せられている。特に、期待が大きかった東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となり、</p>

J R横浜タワーのオープン延期、ぴあアリーナMMやパシフィックノース等の集客施設の稼働延期等、経済活動の出鼻をくじかれたような印象が強く、ショックが大きかったと感じている。

津久井学校連携・こども担当課長：学校の関係で、直接、区役所に寄せられた案件はないが、緊急事態宣言発令中、こどもたちへの対応をどうするのかということについて、教育委員会だけでなく、学童保育やキッズクラブなども非常に悩んでいたということは聞いている。

清水議員：各団体、業界でいろいろと努力・工夫をしながら進めている状況だと思う。6月1日から学校が再開したということもあるので、今後も区役所として、継続的に様々なサポートをお願いしたい。

<子育て支援の推進>

清水議員：新型コロナウイルス感染症の影響により、プレパパママクラス土曜日開催の初回を中止したということだが、当該事業に対する西区民のニーズ等を教えてほしい。

松石こども家庭支援課長：今年度は一度も開催できていないため、昨年度の状況について説明する。西区の事業としては、定員24名で募集をかけているが、応募が定員を超えることが多く、一部お断りしている状況が発生しており、事業に対するニーズは高いと考えている。

清水議員：新型コロナウイルス感染症によって、大きな影響を受けるのは、最終的にはこどもたちだと考えている。その影響を小さくするためにも子育て世代の支援をしっかりとやっていきたい。

<地域資源を活用したまちの回遊性向上事業（区局連携促進事業）>

荻原議員：地下鉄高島町駅周辺歩行者環境改善検討事業について、委託先や詳細な進捗状況等について教えてほしい。

村上区政推進課長：現況調査や課題整理等に向けて、これから委託をかける段階にある。早い段階で事業者を決定し、検討を進めていきたいと考えている。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業>

荻原議員：市の施策で商店会に加入している店舗に対して、一店舗あたり10万円を給付するという施策がある。西区で実施している「オウチで西区商店会」という事業も商店会に加入している店舗を対象としているが、商店会に所属していない店舗に対する施策等があれば教えてほしい。

松井副区長：商店会に所属していない店舗に対する施策としては、50万円から500万円の小規模融資を利用している店舗に対して10万円

を給付するという施策がある。また、少しでも多くの店舗、事業主に事業を継続してもらうため、国・県・市の支援策を一覧表にまとめたものを作成し、各種団体を通じて周知を図っている。

<西区の緑化と地域のつながり形成推進事業>

荻原議員：地名の由来にもなっている藤棚の再生事業は、大変良い事業だと評価している。事業展開にあたっては、インスタグラム事業との連携や現地に事業周知の掲示板を設置するなど、区民との接点、未来に楽しみが感じられるような工夫をしながら進めてもらいたい。

森土木事務所副所長：インスタグラム事業を実施している地域振興課と連携して情報発信を展開していく。

<安心して暮らせるまちづくり推進事業>

荻原議員：特別定額給付金に関わる特殊詐欺について、西区での発生状況等を教えてほしい。

寺岡区長：件数までは把握できていないが、特別定額給付金の手伝いをすると言って銀行口座を聞き出すという事例が戸部署管内で発生したと聞いている。

<地域防災活動推進事業>

荻原議員：新型コロナウイルス感染症が拡大している状況で、地震や風水害が発生した場合、避難所運営について非常に難しい対応が求められるが、その対応方法として現在公表されている情報は内容が薄いと感じている。市として、または区として、今後に向けた検討内容や取組状況を教えてほしい。これから雨が多くなり、台風も発生してくるので、迅速に検討を進める必要がある。また、その内容を区民に周知し、共有する時間も必要なので、早急に対応を進めてほしい。

近藤総務課長：新型コロナウイルス感染症を踏まえた対策は重要課題と捉えている。既に進めている取組として、各避難所に体温計、消毒液、避難者用マスクなど感染症対策物品の備蓄を進めている。また、避難所での3密を避けるため、自宅の安全確保を前提として、在宅避難の実施を呼びかけていこうと考えている。現在、総務局危機管理室において、感染症対策のポイントの作成を進めている。西区においても避難所運営にあたっては、避難者の検温といった受入時の対応方法や飛沫感染を防止するための避難所レイアウトの検討などを進める。また、体調がすぐれない避難者、感染した場合に重症化リスクが高い避難者については、体育館以外に確保している要援護者用の3教室を活

用しようと考えている。

寺岡区長：区民への周知に関しては、広報よこはま等で特集を組むなど、様々なツール、場面を活用して、繰り返し行っていく。

【西区に係る予算のすがた】

【西区における開発動向等について】

【西区役所における新型コロナウイルス感染症への対応について】

<西区における開発動向等について>

清水議員：説明資料にはないが、昭和50年頃から進められてきた国道1号の拡幅事業が事業承認された。今回の内容は、浜松町から西平沼交差点までの間を完成させようというものだが、事業の中に、自転車レーンの設置が計画されている。西区では、ベイバイクの利用促進に積極的に取り組んでいるところだが、区内の回遊性向上の視点において、ベイバイクも含めた自転車の利用は、更に進んでいくと考えている。そこで、検討事項の一つとして、東横線廃線跡地の通行について、現在の考えでは、歩行者専用ということだが、自転車の通行は考えられないか。また、高架下の部分についても、自転車の通行について、考えてみてほしい。

村上区政推進課長：現在のところ、歩行者専用としているため、ご提案いただいた内容については、都市整備局に伝える。

清水議員：西区は、鉄道によって分断され、それを越える橋が複数かけられているが、特に、区を中心を行き来する一之橋と二之橋は、自転車の通行について、危険な状態にある。自転車を中心とした道路のあり方を考えてみてほしい。また、道路と歩道という観点で西土木事務所長からの意見も聞きたい。国道1号、東横線廃線跡地、いずれも歴史の詰まった場所なので、西区の自慢となるような整備ができたらいと考えている。

荻原議員：平沼二之橋跨線橋について、今後も自転車が自然と増えていくことが予測されるので、自転車が安全に通行できるように善処していただきたい。

寺岡区長：自転車の通行について、危険を感じていた場所に自転車専用レーンが設けられることは、喜ばしいことと捉えている。ベイバイクの利用も進んでおり、みなとみらいには既に自転車専用レーンがかなり整備されているので、自転車の役割は今後も高まっていくと考えている。一方、長年の懸案である跨線橋についても、これまで以上に関心をもって取組を進めていきたい。

川北土木事務所長：歩行者を重視した考え方として、車道を狭め、歩道を拡幅するという考え方も出てきている。今回の整備は、都市計画法に

基づき、歩道と自転車通行帯の整備を行うという新しい視点での取組となる。実際の整備は、国交省の道路局が進めていくことになるが、西土木事務所としても、国交省の道路局から情報を得て、歩行者を優先した整備となるよう、状況確認をしていきたい。

荻原議員：西区で自転車の通行が大変増えていると実感している。ただ、西区は歩道が狭く、歩行者や自転車の滞留があちこちで発生している。特に滞留が発生している場所等について、状況調査をしてもらいたい。

川北土木事務所長：現在、スクールゾーン対策協議会等とも協力して、危険な場所のチェックは行っているので、今後は、自転車が滞留する場所という視点も入れて調整していきたい。

清水議員：前日も発言したが、横浜駅周辺の浸水対策事業により、岡野公園の野球場が半分使用できなくなる予定となっている。利用者の理解は得られている状況だが、何か代案を考えていかなければいけない。

村上区政推進課長：当該事業が利用者の協力の上で成り立っているということは承知している。現在、東俣野中央公園の優先利用などについて、調整を進めていると聞いている。

荻原議員：野毛山寮の跡地、及び野毛山公園プール跡地の整備には、地域の方のいろいろな思いがある。新型コロナウイルス感染症の影響で、コミュニケーションが取りづらくなっており、今後も状況は読めないが、対策をしっかりと講じて地域の方との意見交換をしっかりと行ってほしい。

村上区政推進課長：野毛山寮の公園整備については、これまで2回、所管の環境創造局を交えて意見交換を行ってきた。3回目が中止となっているが、所管局も地域の声を反映させるということを第一に考えて対応しているので、感染症に対する安全策をしっかりと考えて進めていきたい。

また、野毛山公園プール跡地については、解体の時から地域の関心が非常に高いことを承知しており、地域の方の思いをしっかりと反映できるよう、しかるべき時期に地域の方とのコミュニケーションが図られるように、引き続き所管の環境創造局に働きかけていく。

清水議員：横浜税関西戸部寮跡地の公園整備について、今後、工事が始まり、工事車両が進入してくると思うが、近隣に幼稚園があるので、子ども達が安全に登園できるよう、安全を第一に考えて工事を進めてもらいたい。

村上区政推進課長：所管の環境創造局に意見を伝えるとともに、西区としても状況把握に努める。

清水議員：久保町の防災広場等整備について、にこにこ商店街から左折して入る道路はどの程度拡幅されるのか。整備後の状況が分かる図面があれば提供してほしい。

村上区政推進課長：所管の都市整備局に資料の有無を確認し、後日改めて提供する。

<新型コロナウイルス感染症への対応>

荻原議員：西区役所における新型コロナウイルスへの対応のうち、感染を疑われる区民等からの相談対応について、区の体制とコールセンターの役割を教えてください。

内田福祉保健課長：一般的な感染症の相談対応は、従前から24時間365日体制であるが、今般の新型コロナウイルス感染症への対応のため、区役所でも応援職員を配置し、体制を強化した。コールセンターは、多数に上る新型コロナウイルス感染症の相談に対応するために設置したもの。

<消防署の取組>

荻原議員：新型コロナウイルス感染症と防災について、消防の観点から意見を聞きたい。

宮川消防署長：最近では風水害も多く避難所の運営は重要課題と考えている。消防署の最大の武器はマンパワーだと考えているので、区役所と連携しながら、地域の方に適切な情報を迅速に伝え、避難を促していく、というところに力を入れていきたい。

清水議員：新型コロナウイルスと直接つながる話ではないが、救急需要の増加に対応するため、救急の日勤部隊を編成しているという話を聞いたが、詳細を教えてください。

宮川消防署長：高齢化等の影響で、救急需要が増加していく状況に対応するため、救急隊の増隊として、昼間のみ運用する日勤救急隊を編成した。これまで、西消防署と港北消防署で2年間試行を重ね、今年度4月から本格運用を開始した。また、瀬谷区でも1隊の運用を開始するため、今年度は3隊編成されている。運用状況については、横浜駅を中心に朝の通勤時間帯など、日中のうち、特に救急需要が大きい時間帯について、既存の24時間体制の救急隊の負担が軽減された。今後も適正な運用を図っていきたい。

清水議員：救急体制に厚みが増したことを大変喜ばしく感じている。また、新市民病院敷地内に救急ワークステーションが完成し、ますますの体制充実を期待している。

	<p><ワークスタイル改革の取組></p> <p>清水議員：テレビや新聞などで、オンライン会議が話題に上がっているが、西区においてもそういった取組を進めていく考えはあるのか。</p> <p>寺岡区長：今回の会議は、集まって開催することができているが、今後、集まることができない状況が発生した場合は、オンライン会議などの代替策が必要と考えている。実際に使いこなすために何が必要なのかということについて、条件整理を進め、完全にコミュニケーションがシャットアウトされる状況は避けていきたい。</p>
備 考	